

2019年2月実績概要(メモ)

(2019. 3. 20)

エチレンの大幅な減産に伴い、誘導品の生産も軒並み減少。

1. 生産動向

イ) エチレン 487,700トン

前月比 ▲15.9% (▲92,500トン)

前年同月比 ▲6.6% (▲34,300トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 9.7 %	-
定修要因等	▲ 4.8 %	▲ 5.9 %
能力増減	-	+ 0.2 %
稼働率変動	▲ 1.4 %	▲ 0.9 %
生産増減率	▲ 15.9 %	▲ 6.6 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月98.1%→ 当月96.6%← 前年同月97.5%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減少と稼働率要因等からLD、HD、PP、PS、SM、塩ビ樹脂、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの17品目全てがマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因等からLD、PP、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、ANなどの13品目がマイナス。SBR、トルエンなどの4品目のみがプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、稼働日数の減少に加えて稼働率要因が合わさりLD、HD、PP、PSで大幅なマイナスとなった。

前年比では、4樹脂ともに定修規模は縮小しているものの稼働率要因からLD、PPはマイナス、HD、PSはほぼ前年並みの生産となった。

ロ) 国内出荷

前月比では、年始の休暇があった前月に対して、当月はユーザー側の稼働日数の増加に加えて、前月までの当用買いの雰囲気も薄れはじめたこともあり4樹脂揃ってのプラスとなった。

前年比では、前年が大型定修年に当たり、定修に備えた在庫積み増しが始まり、低調な出荷状況にあった。これに対し、当年はこの制約もなくなったことからLD、HD、PP、PSで前年の出荷を上回った。

ハ) 輸出

前月比ではポリオレフィン3樹脂は前月が極めて低調な輸出状況にあったが、当月は一転して増加し、PSと合わせて4樹脂でプラスとなった。

前年比では、国内出荷と同様に前年の輸出が抑え気味の傾向にあったこともあり、4樹脂いずれも前年を上回ることであった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PPで減少、HD、PSは幾分か増加となった。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PSで低下、PPは横ばいとなった。在庫水準としては、LD、HDではやや高めの水準、PP、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		1月末	2月末
LD	▲15,100	3.9	3.4
HD	+2,100	3.7	3.4
PP	▲8,800	2.8	2.8
PS	+2,100	1.4	1.3

以上